

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自律」「協調」「創造」を校訓とし、総合学科の特色である人間性と専門性を育成し、地域に信頼され、社会に貢献できる人材を輩出する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	4つの力を備えた人材 <ul style="list-style-type: none"> ・「気」挨拶がしっかりとできる力、端正な服装ができる力、時間をきっちり守れる力 ・「心」自分で考える力、対話する力、相手に伝える力 ・「体」地元を大切にし、地域に貢献する力 ・「技」資格取得、特技の伸長、部活動への積極的な取り組みができる力
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心に、生徒の人間性、専門性を向上させるとともに、情報共有と意思疎通を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添い、粘り強く支援・指導を続けられる教職員集団。 ・研修や授業改善、業務の効率化などに前向きに取り組み、あらゆる場面において常に改善の意識をもつ集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒>前年度末の生徒アンケートの結果、生徒の約 33%が就職を希望し、約 28%が専門学校、約 26%が四大・短大への進学を望んでいる。全体として授業や学校行事、部活動に対する期待度は高い。</p> <p><保護者>保護者アンケートから、学校目標や教育目標への理解度は高い。また、家庭学習の充実を求める声も多く、多様な進路に対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいと思っている。</p> <p><地域>地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭>生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風</p> <p><地域>信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化</p> <p><就職先>卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p><進学先>学ぶ力と志を備えた人材の輩出。</p>	<p><家庭>基本的な生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力。</p> <p><地域>学校と地域が共働した取り組みへの推進</p> <p><就職先>インターンシップ、進路講話への協力</p> <p><進学先>高大連携授業、進路講話への協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○ 総合学科としての特色ある教育課程とそれを活かすためのキャリア・ガイダンス 多様化する生徒の興味・関心・進路に対応した教育課程が構築されている。加えて、その優れた教育課程を十分に活用できるよう、担任団・学校運営部によるきめ細やかなキャリア・ガイダンスが提供されている。極めて高く評価できる。現状の取り組みをより前進させてもらいたい。</p> <p>現在、伊賀地区は高等学校再編のさなかにある。このような時勢にあって、生徒・地域・社会から求められるニーズは何なのかを、常にアンテナを高く張りめぐらし、不断的にその認識に努め、教育課程改善の検討を行う必要がある。</p> <p>○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育 「基礎学力テスト」による学力診断、「N1グランプリ」による学習意欲の向上、「プラス日記」等の取り組みによる学びの綴りなど、基礎学力充実のための取り組みが精力的に行われている。こうした取り組みは充実しており、極めて高く評価できる。しかし、その一方で、家庭学習をほとんど行っていない生徒の多く、学びへの意欲を欠いているという現実がある。これは、自分は何のために学ぶのか、学びは人生をどのように豊かにするのかといった「学ぶことの意義」を学ぶことの不足に起因しているものと考えられる。ここに御校の大きな課題があると指摘できる。</p> <p>○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動 多彩な学校行事や総合的な学習の時間の運営、人権学習等が充実しており、これに対する生徒の満足度も高い。しかし、こうした取り組みにより、生徒の未来がどのように拓かれるのかを生徒自身によく認識させる必要がある。</p> <p>○ 信頼される学校づくりと広報活動 名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。特に、「名張高校新聞」は、学校内のホットな情報を明るく楽しく広報したものであった。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	総合学科に学科改編して15年目を迎え、伊賀地区の中学生が減少し、高等学校再編化の動きが活発化する中で、生徒の進路希望が多様化し、将来の夢や目標が希薄化している。 一方、総合学科に魅力を感じ入学する生徒だけでなく、進学か就職かに迷う生徒、経済的理由により就職しなければならない生徒等、多様な課題を抱えた生徒一人ひとりに寄り添った支援が必要である。
	学校運営等	・授業や部活動、放課後の会議等、過密なスケジュールで教職員の多忙感が払しょくしきれていない。また、19時以降でも多くの教職員が職員室にいるという状況が常態化しており、総勤務時間の縮減が喫緊の課題である。 ・全教職員が自由に意見を述べ合う雰囲気を作り一層醸成するため、分掌・学年間を超えた情報共有が必要。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。 ・豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる環境を整える。加えて、生徒の自己肯定感・自己有用感を育み、規範意識を醸成し、粘り強い態度の育成を行う。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が、共通のテーマのもと授業公開や授業研究などを行い、生徒アンケートや関係者評価委員会等の結果を活用して、授業の改善に努める。 ・教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の現状や課題を共有し、組織の業務内容の見直しに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	(1) (2学年より) 「基礎学力の定着・学ぶ姿勢の確立」 長期休業明けの各教科等の課題(宿題)提出を徹底し、基礎学力の定着に不可欠な「基本的な学ぶ姿勢」を確立する。 目標:各教科と協働し、長期休業中の課題提出:全員提出(春季・夏季・冬季ともに100%提出) 【成果指標】課題未提出の生徒数	(1) (2学年より) 夏季課題を除く目標達成 ※春季・冬季…100% ※夏季「国語表現」のみ未提出者…10名	※
	(3学年より) 「進路指導を充実し、進路指導に対する生徒満足度の向上を図る」 目標:進路指導に対する満足度、「満足した」が80%以上 【成果指標】「総合的な学習の時間」最終週の授業で満足度調査を実施。 『名張高校の進路指導に満足しましたか』に”とても満足した””満足した”と回答した合計数。	(3学年より) 4項目に分けて調査した。 「進路情報を適切に提供」 87.6%、「効果的な指導」 87.0%、「補習や講演会は役に立った」74.1%、「産社・総合は役に立った」71.9%。 4項目の総計は80.1%	◎

	<p>(2) (教育運営部より) 目標: 思考力・判断力・表現力が育つよう授業改善を行い、生徒が能動的に学ぶ授業を実践する。 【活動指標】各教科の実施状況、達成状況</p> <p>(3) (進路指導部より) ①希望進路の実現 進学では、学習合宿の実施や進学補習の充実。就職では、就職対策講座の実施や面接指導の充実などにより、第1志望の進路先への合格100%を目指す。 【成果指標】第1志望の合格率・生徒アンケートの満足度</p> <p>②基礎学力の定着 1・2年次生対象の基礎学力テストを実施し、基礎学力と進路実現との相関関係を分析することで、教員の共通理解の基盤として低学年からの進路指導に活かす。 【成果指標】基礎学力テスト偏差値および到達度</p>	<p>(2)各教科ともペアワークや教え合いを行うなど生徒が主体的に学ぶ授業ができた。</p> <p>(3)①進学:学習合宿(3日間)、参加者 1年5名、2年18名 進学補習:1,2年・月～金40分(月曜120分・水曜以外で実施)、3年・月～金50分 就職: 合格率 98.6% (県内63名・県外6名) アンケート満足度 88.8%</p> <p>②基礎学力テスト 2回実施 基礎学力の定着(前回より上昇:1年次58名・2年次70名)</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
<p>豊かな心の育成</p>	<p>(1)(1学年より) 「基本的生活習慣の定着・確立」 日頃から高い目標を掲げ、社会人として必要な素養を身につけさせ、さらに3年次での進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。 【活動指標】定期的な学年通信等での提示、SHR・LHRでの指導、定期的な学年集会での指導 【成果指標】年度末の皆出席者100名(生徒の約40%) 遅刻総数年間243回以内(遅刻指数:1.0)</p> <p>(2学年より) 「基本的生活習慣の定着・確立」 欠席・遅刻の際の事前連絡を徹底し、遅刻の習慣化を防止する。 目標:①遅刻回数:年間345回以内(延べ日数の約0.9%) ②2年次末の皆出席者60名以上(生徒の30%) 【成果指標】遅刻の生徒数、皆出席の生徒数</p> <p>(2)(人権より) 人権学習 LHR 後に実施する「人権個別面談」をとおして、部落問題をはじめとした人権諸課題についての生徒一人ひとりの認識や生活課題を把握するとともに、学習に向かう姿や学習の中での発言・綴りをとおして、生徒が変容していく姿を把握することに努める。 【活動指標】面談年3回実施。(ただし3学年は2回)</p> <p>(3)(保健より) 「健康な心身の育成」 全生徒の健康状態を把握するとともに、疾病の早期発見に努め、生徒自ら健康管理ができるようにする。 【活動指標】健康診断の100%実施を目指す</p>	<p>【成果】 ○年度末の皆出席者81名(2/15現在)(生徒の34.1%) ○遅刻総数年間217回(1月末現在)(遅刻指数0.893)</p> <p>(2学年より) ①目標未達成 遅刻回数:年間487回 ②目標をほぼ達成 2年次皆出席者数:57名</p> <p>(2)人権面談を年3回実施した。(ただし3学年は2回) 人権LHRの振り返りを行うことで生徒の人権感覚を高めるよい機会となった。また、生徒の実態を把握し、進路等に関する話し合いもすることができた。</p> <p>(3)未受診者: 内科3(2)・眼科7(2)・歯科6(2)・検尿・X線・心</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p>

	<p>【成果指標】健康診断実施統計で評価する</p> <p>(4) (生徒支援部より)</p> <p>・年間遅刻者数の減少</p> <p>【成果指標】年間遅刻者数のべ1000人以下、(月別遅刻者数) (正当な理由あり・正当な理由なしの両方)</p>	<p>電図はともにすべて全員 受診完了※括弧内は長欠 何度も声をかけ、指導し た結果、概ね受診させる ことができた。</p> <p>(1) (生徒指導より)</p> <p>・年間遅刻者のべ957人 (連絡あり・なしの両方) * 昨年は1526人 (連絡あり541・なし985)</p>	※
--	--	--	---

改善課題

(1学年) ○皆出席者は目標をクリアしたが、特定の生徒の欠席数が積み重なり、20日前後欠席している生徒が例年に比べ多い。そこにはさまざまな要因があるが、ストレスや重圧に対しての耐性も身につけなければならないと感じている。

○遅刻に関しては、毎学年通信で遅刻数を報告し、また SHR や LHR で各担任から注意喚起をしてもらうことで、生徒への意識付けはできた。ただ、これに満足することなく、さらに数を減らす努力をしていきたい。

(生徒支援部) 朝の遅刻が減少してきたが、毎授業の遅刻者がまだたくさんいる現状である。毎授業の遅刻を減らし、時間を厳守させる生徒を育成する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職員充実度の向上	<p>(学校マネジメント委員会より)</p> <p>・分掌・学年間を超えた情報共有の場の提供</p> <p>【活動指標】組織力向上に関する話し合いの実施回数2回以上</p>	<p>8/22オフサイトミーティングを実施。名張高校を総合学科に改編した経緯や思いを共有した。</p> <p>8/30, 31に職員研修を実施。応急救護、特別支援、学習成果の評価方法等の研修を実施した。</p>	※
情報提供による信頼の構築	<p>(総務部より)</p> <p>・学校創立100周年記念式典等の学校行事の充実 目標:発表機会と集団活動の充実</p> <p>【成果指標】行事後のアンケートで満足度を調査 満足した(楽しめた)生徒 80%以上</p> <p>・読書習慣と情報活用能力の育成 目標:図書館利用の拡大</p> <p>【成果指標】貸出率、利用率、授業での図書館利用数 生徒1人当たり貸出率3冊、生徒全体の利用率4割以上 授業での図書館利用数 160 時間以上</p>	<p>学校祭</p> <p>生徒アンケート 楽しめた62%、やや楽しめた32%、あまり楽しめなかった4%、楽しめなかった3%</p> <p>2月15日現在</p> <p>生徒貸出率 3.5 冊</p> <p>生徒利用率 39.3%</p> <p>授業利用数 133 時間</p> <p>パトロールを2回実施。</p>	◎ ※

	<p>・清掃美化 目標:ゴミ、ガム、落書きの減少とゴミ、ペットボトル分別の徹底 【成果指標】年2回以上の美化パトロールで 清掃箇所別4段階評価し、評価2以下ゼロを目指す。</p> <p>・学校紹介の充実 目標:名張高校を希望する中学生の数を増やす。 【成果指標】入門講座への参加人数 定員の2.3倍以上</p>	<p>概ね良好(6月は廊下の埃がやや目立ったが、12月は2以下は0)であった。 入門講座2回分の参加者(326名+160名)/来年度1年生定員200名=2.43</p>	※
教職員の人権感覚の向上	<p>(人権より) 人権学習LHRで部落問題学習に取り組むにあたって、まず教職員一人ひとりが部落差別の問題について自分自身の問題としてとらえることができるように、差別の現実に学ぶことができるフィールドワークを職員研修として実施する。 【活動指標】職員研修年3回以上</p>	<p>5/16および6/29に一ノ井市民センターにて職員人権研修を行い、全教員がフィールドワークに参加をした。8/10 奈良県にある水平社博物館を訪問。2/24、LGBTに関する職員研修を実施予定。正しい知識をつけ理解をすることで教員の人権感覚を高めることができた。</p>	◎

改善課題

(総務) 入門講座2回分の参加者数は目標値を達成し、参加者の満足度も高かった。名張高校の総合学科の特長が参加者には十分に伝えられたのではないかと。清掃美化については、昨年度末教員アンケートを実施し、今年度は清掃用具を充実した。その結果、校内が少しずつ清潔に保たれてきており、特に懸案であった窓の汚れについても少しずつきれいになってきている。また校内パトロールの実施方法も改善し、より組織的な清掃点検を実施できるようにした。今後の課題としては、引き続き清掃用具の整備を図り清掃活動をより充実することによって、さらなる校内美化に努めることである。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○ 総合学科の教育課程経営とキャリア教育 担任団・学校運営部・進路指導部が中心となり、多様な生徒の興味・関心・進路に対応した総合学科の教育課程経営が行われている。名張高等学校の強みを活かし、細やかなキャリア教育の展開が図られている。極めて高く評価したい。引き続き、生徒の興味、関心、能力を十分に引出し、自己実現、進路実現がなるよう、教育に取り組まれない。また、生徒・家庭・社会から何が求められているか、その認識を不断に努め、経営改善を継続していただきたい。</p> <p>○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育 「基礎学力テスト」や「N1グランプリ」等、基礎学力充実のための取り組みが充実している。極めて高く評価できる。しかしながら、家庭学習の時間をしっかり確保できない生徒が散見される。学びへの意欲をさらに喚起する必要がある。キャリア教育のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることが望まれる。</p>
----------------------------	--

	<p>○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動</p> <p>基本的な生活習慣の確立のため、生徒への遅刻指導や健康管理に力が注がれている。これはひとり生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。極めて高く評価できる。また、学校行事や人権学習等も充実しており、生徒の満足度も高い。このような取り組みが、生徒のよりよい未来を拓くものであることを、生徒自身に認識させていく必要がある。</p> <p>○ 信頼される学校づくりと広報活動</p> <p>名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。特に、情報発信元として、ウェブ・ページの重要性を指摘しておきたい。読み手が名張高校の教育の良さを感じ取れるような情報発信内容と、その方法に工夫がなされると良い。</p>
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>① 学力向上</p> <p>確かな学力の向上にむけて、授業においては学習内容を精選し学習方法を工夫することによって、現在の学びが将来どのようにつながっていくかを分かりやすく伝え、生徒に学ぶ意義を認識させる。</p> <p>② キャリア教育</p> <p>科目選択と学習面でのサポートをより有機的に行い、担任団、学校運営部によるきめ細かなキャリア・ガイダンス科目「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」をベースとしたキャリア教育をさらに充実させる。</p> <p>③ 規律ある生徒の育成</p> <p>基本的な生活習慣を確立させるため、遅刻指導や健康指導をいっそう充実させる。また、学校行事や人権学習をより充実させ、生徒の豊かな心と健康な体を育むとともに、そういった活動を通して生徒の未来がどのように拓かれるか認識させていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>① 情報提供による信頼の構築</p> <p>高校生活入門講座をはじめ、ウェブ・ページによる情報発信を定期的に行い、名張高校の魅力をより伝えられるように内容等を今後一層充実させてゆく。</p> <p>② 職員充実度の向上</p> <p>分掌の枠組みを超えた会議を実施することにより、業務の効率化や業務内容の精選を大胆に実施してゆく。</p>